**ＪＡＭ東海第21回定期大会・木戸執行委員長挨拶文**

折角のお休みの所、愛知・岐阜・三重の各地域より、沢山の大会代議員、特別代議員　並びに傍聴の皆さんにご参集いただいたことに心から感謝申し上げます。

諸先輩方の意志を絶やすことなく、労働運動を継承する中で、JAM東海の定期大会も21回目を迎えることができました。

これもひとえに、構成単組のご尽力と組合員の皆さんの格別なるご協力、そして、そのご家族の並々ならぬご理解の賜物であり、重ねて感謝申し上げます。

　更には、構成単組の三役・執行部の皆さまにおかれましては、JAM東海の諸活動はもとより、地区協活動をはじめ各県・各地域での連合運動　並びに労働者福祉活動においてご活躍・ご奮闘いただいておりますことに、心からの敬意を表したいと思います。

それでは、３点程お話しさせていただき　主催者を代表しての、ご挨拶とさせていただきます。

冒頭、各地で発生しております災害に対し被害にあわれた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

　まだ、千葉県の方は大変な状況が続いています。本当に1日も早い復旧を願っておりますし、1日でも早く元の生活に戻れることをお祈りいたします。今回の大規模停電や農作物被害などをもたらした台風15号と、８月に起きた佐賀など九州北部での記録的な大雨被害とを合わせて、政府も近く激甚災害に指定するようですので、JAM東海としても、JAM東京・千葉、JAM九州・山口などと連携して支援活動に取り組んでまいりたいと思いますので、引き続き皆さんのご理解・ご協力をください。

昨年もお話ししましたが、東日本大震災以降、毎年？毎月？毎日のように日本列島を自然災害が襲っています。

我々、JAM東海も方針も含め、息の長い被災地に寄り添った活動を心掛けています。最近、巷では「寄り添うだけではあかん！」って言っている人もみえるようですが、恩着せがましいプッシュ式の支援活動より、寄り添うことで生まれる「何か」の方が、私は大切だと思っています。

前委員長の、口癖でもあった、「大きな取り組みはできませんが、小さな事からコツコツと　息長く被災地に寄り添って欲しい」を実行して参ります。

もう、私たちの身の回りでは、いつ・どんな災害が起こってもおかしくありません。残念ながら、耳慣れてしまった「想定外」に対し「備えろ」と言われてもなかなか難しいと思いますが、先ずは、「自分の、そして家族の命を守る」ことを優先してください。「命」があればなんとかなります。

そんな中、私から二つお願いがあります、以前お話ししたかもしれませんが、東日本大震災の語り部さんからの言葉です。「車のガソリンは常に満タン」これを心掛けていただきたい。車のガソリンが満タンであれば、1週間くらいは雨風や暑さ・寒さも凌げますし、充電も明かりとりやテレビ・ラジオで情報も取れると思います。

もう一つは、「今、災害が起こったらどうする？」と自問自答を癖づけていただきたい。このところ水や風の災害が多いですが、なんと言っても地震大国ニッポンです。特に東海地方は南海トラフ地震が想定されています。常に備える事は難しいと思いますが、ふっとした時に「今、揺れたらどうする？今家族はどこにおる？連絡はとれるか？」って自分に問いかけてください。常時じゃなくていいんです。

このシミュレーションの回数やシチュエーションのバリエーションが後々役立つと思っています。

　是非、今日から今から実践していただきたいと思います。

２つ目は2019春季生活闘争と2020春闘です。

平成最後の春闘は6年連続で賃金改善の流れを継続する　いわゆるベア春闘となりました。この6年間で一番厳しい交渉となったと実感しておりますが、昨年に引き続き中小労組の粘り強い交渉が際立ったように思います。中小労組の皆さんのご奮闘に敬意を表したいと思います。

一方で2020春闘は、7年連続のベア春闘とはいかないでしょう。JAMが進める「賃金のあるべき姿の議論」や「個別賃金要求」などへ思い切って舵を切る。春闘も目指すべき位置は同じでも、やり方・進め方を変える時期が来ていると思います。

この件は昨年同様に、労働政策委員会に託したいと思いますが、皆さんから色々なお知恵をいただき、JAMらしい春闘、そして令和最初の春闘を皆さんと共有したいと思います。

３つ目は、これに触れずに終われません。政策実現に向けての取組みについてです。本当に残念な結果となってしまいましたが、この2年間「田中ひさや」の活動に公私問わず、全身全霊をかけたご協力・ご尽力いただきましたことに、組織を代表して心からお礼申し上げます。

組織として、組合員の皆さんの努力を形として残せなかったことは、すべて私の責任であると猛省しております。

　3年前の藤川しんいちを擁立した時の「113,045票ではあかん！」と色々な場面で申し上げて来ました。今回の143,492票には愕然としました。JAM38万人と今回強力なタッグを組んだ、基幹労連27万人。合わせて65万人が本気になれば30万票は夢じゃないと思っていました。

　正直、手応えと得票数のギャップに自分の甘さを覚えました。

　ＪＡＭは独自候補の擁立で国政選挙2連敗。本当に国へのパイプがか細い産業別労働組合となってしまいました。

　同様に思い知らされたのが、我々、執行部と構成組織の代表の皆さんとのパイプの細さであり、そのもっともっと先の組合員さんとのパイプの無さです。私たちの声や思いが伝わらなかった　ということです。本部が総括を出していない状況で我々、東海が多くを語ることは避けたいと思っています。

　ご意見の中には、「党が違えば、当選したんじゃないの？

」という声も聞こえてきます。でも、そんな安直な振り返りではなく、先ほど申し上げたパイプを太く・強くすることを含めた、未来に繋がる総括にしてまいりたいと思います。

最後になりますが、本大会をもって退任される役員の皆さまの長年に渡る貢献とご功績に　心からの敬意と謝意を表します。

とりわけ、小山副委員長と郡山副委員長のご退任、そして伊藤一美副書記長のご退職は、JAM東海にとっても私にとっても、大きな屋台骨を失うこととなりますが、ご退任者のこれからの大いなるご活躍をお祈りいたします。

私も一昨年の大会で、前髙田委員長よりバトンを受け継ぎ、突っ走ってまいりました。構成単組の皆さまには、至らない委員長でこの2年間、ご不便とご迷惑をお掛けしたことと思います。

私を含め書記局のメンバーも、構成組織の代表の皆さまの寛大な心と懐の深さに甘えていた部分も多々あります。本大会ではこの1年をそして、1期2年を振り返り、しっかりと反省をして、新しい期に繋げてまいりたいと思っています。

JAM本部も本年は「変革スタートの年」と位置付けています。JAM東海もそれにならい変革をスタートさせます。皆さまの屈託のない活発なご議論をお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

どうぞ宜しくお願いします。ありがとうございました。